

小原台だより

VOL.2

平成7年1月1日

発行 防衛大学校同窓会

編集 堀井 克哉、七嶋 剛士、荒井 正芳

印刷 働エイコープリント



目次

会長挨拶	1
将来構想検討委員会報告	3
特集「防大は今」	5
陸・海・空要員の選状状況	
運動系校友会の新入生加入状況	
六年度運動系校友会活動結果	
期生会便り	7
平成五年度予算使用実績	14
平成七年度予算支出計画	14
平成六年度同窓会行事	15
広報部からのお知らせ	15



新年のご挨拶

同窓会長

中尾時久

世界各地で御活躍の同窓生の皆様には、良いお正月をお迎えのことと、心からお祝い申し上げます。

一 節操なき社会党

社会党の委員長が総理大臣になり、社会党が自衛隊を合憲と認めるなど、世界大激変の波がや々と国内にまで及んで来りました。

それにしても、自衛隊は違憲であると永年に亘って自衛隊とその関係者を悪し様に罵り、日陰者として肩身の狭い思いをさせてきたのに、明確な理論的説明もなく、ましてや自衛隊関係者への一片の謝罪もなく、露骨な政権欲に駆られて大変身するとは、見下げ果てた全く身勝手な政党です。

自衛隊が合憲であることは、国民の大多数や多くの政党が既に認めていたことであり、今回の決定は一周遅れで皆に追い付いたようなものです。

社会党が自衛隊違憲を主張し続け「さわさりながら、責任ある立場に立てば、自衛のための武装集団は必要だ」と、その矛盾の解決に正々堂々と憲法改正を訴えるなら拍手喝采です。これなら、大幅に遅れていたランナーが疾走して皆を追い抜いて先頭に立ったと評価できます。

与党になって責任ある立場につけば、安全保障や消費税について従来の主義・

主張を改めるということは、野党であった長い期間を無責任な言動に終始したという告白であり、政治家としての罪は万死に値すると言えます。

社会党を戯画的にとらえれば、カヤの外で駄々をこねていた悪戯鬼が、やつと大人になる機会を与えられたということでしょう。

二 「憲法改正」の訴え

中西元防衛庁長官でさえ憲法改正に触れた発言をした途端にクビになるお国柄ですので、現役自衛官の皆様は沈黙を守り、替わって自衛隊現役以外の同窓生が憲法改正のキャンペーンをして下さい。

各種世論調査によれば、憲法を改正した方がよいという意見が多数派を占めているのに、政治家が保身に汲々として臆病すぎるため、政治が世論よりも大幅に遅れてしまっています。

昨年十一月、読売新聞社が「憲法改正正試案」を呈示しましたが、憲法改正に一石どころか大石を投じる快挙です。ただ「国軍」とせず「自衛のための組織」としたり、国家非常事態に対処する条項がない点は、反対派を意識し過ぎて、防衛に関し腰が引けている印象を与えます。

軍隊と警察は本質的に全く異なる組織です。それなのに、自衛隊はその出

生に起因して警察的な要素を色濃く持つています。「国軍」としない限りそれは改まらないでしょう。単に「自衛のための組織」として認知しただけでは駄目なのです。法令、制度、待遇等の全てに亘って改正が必要です。

三 憲法改正がなぜ必要か

日本国憲法の前文には「われらは国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思う」「いずれの国家も、自国のことにみに専念して他国を無視してはならない」とあります。これは「国際協調主義」であり、金だけでなく人も出す国際貢献によって名誉ある地位を占めたいという誓いでもあります。

一方、第九条は自衛のための武力しか認めていないので「一國平和主義」です。前文と明かに矛盾しています。また、国連に相応に協力するために、日本国憲法を改正して国連憲章との整合を図る必要があります。

憲法がそのままでは、自衛隊は本質的には軍隊ですが法制上は軍隊ではなく、国際的には特殊な団体にすぎません。この特殊性は永年のお付き合いがある米軍は知っていますし、日本国民も勿論知っています。従って、米軍と共同して国土防衛をする際は、軍隊ではない特殊性からくる多くの不利点はカバーされます。

しかし、PKOとして世界各地に派遣された場合は、多くの国の軍隊と関わりがでてきますが、自衛隊という特殊性を仲々わかってもらえず、そのマインナスのツケはすべて派遣部隊に回ってきます。それでも、政治が自衛隊の名誉と地位向上にあまり努力しないの

で、自衛隊がPKOで成果を挙げて、自助努力として国民世論を喚起するという意味合いならPKOまでは納得できます。これとても、自衛隊のままなら列島守備隊なので、本務に支障ない範囲でやるべきであって、自衛隊法を改正して本務に加えることには疑問を感じます。国軍にしないのなら、自衛隊の国際貢献は副務としてのPKOまでを限度とすべきでしょう。現憲法のままでは全面的な国際貢献には無理があり、それ故に国会でもPKFを凍結した筈です。

PKFとして派遣するならば、憲法を改正して列国並に国軍とした上で出すべきです。可能性も与えず任務のみ過重にしたのでは、派遣される自衛官が可哀想です。国軍としての名誉も権限も待遇も与えられず、身の危険だけが列国の軍隊並というのでは、まさに悲劇的な漫画です。首相の「人(自衛官)にやさしい政治」はどうなっているのでしょうか。

国際貢献は貿易立国である日本にとって当然の義務です。それを果たす組織は自衛隊以外にはないでしょう。平和憲法という「家訓」をたてに武力不行使と言って理想を追求したつもりでも、世界の常識は「他国の青年だけに血を流させる気か」と言うでしょう。

安部常任理事国となって引け目を感じないためにも、全面的に国際協力するためにも、憲法を改正して自衛隊を国軍として認知すべきです。

四 憲法をどう改正するのか

この項は同窓会会長としての意見ではなく個人的な見解です。叩き台

を提供したいと思えます。

憲法の前文に示された平和主義や国際貢献の精神は貴重なものです。これは今後とも尊重すべきでしょう。

しかし、自衛隊が武装集団として機能するに際し現行憲法は不備が多いので、次の三点の改正が必要です。

第一点は、自衛隊を憲法で国軍として認知し、それを小中学生でもわかるような文書で明記することです。

日本の平和が永年に亘って維持されているのは、自衛隊の存在と日米安保条約のお陰であることは、常識ある全ての人が認めるところです。そして、自衛隊が戦力なき存在ではなく、本質的には軍隊なるが故に存在意義があることも自明のことです。

自分達の属している組織が憲法上疑義があり明文化されていない所謂「日陰者」であることは、士気に影響します。この士気というのは、武装集団にあつてとても重要な要素なのです。

また、強力な物理的破壊力を持つ自衛隊を憲法の枠外に放置しておくのは、猛獣を檻の外に出しておくようなもので危険であります。

第九条の改正は軍事大国への道と言って脅しをかける輩がいます。第一次大戦までと異なり、武力を行使しても領土も戦利金もとれず、逆に国民が戦火に晒されるだけで、損ばかり多く何の得もしないのが現代の戦争です。また、自衛隊という小さな組織でさえ演習場に事欠く日本です。軍事大国になる必要性も可能性も全くありません。

折角これまで健全に育ててきた国民的財産である自衛隊を不当に差別する

こと無く国軍として正当に位置づけ、きちんとコントロールしながら本来の力を十分に発揮させることが、国民の利益に繋がるのではないのでしょうか。

第二点は、国家非常事態に関して規定することです。現憲法を制定した時は米軍の占領下にあったため、非常事態には米軍が対処するようになっていました。今や独立国として非常時には自衛隊が対処するわけですが、これに関わる法制が全く不備であり、自衛隊は有事に機能できないおそれがあります。超法規でやれば、文民統制に違反すると責められるでしょうし……。自衛隊だけでなく国家そのものが、有事には半身不随になってしまう危険があります。

第三点は、特別裁判所の設置を認めることです。軍刑法と軍法会議は武装集団を正しく運用するためには欠かせない機能です。有事には死の恐怖があるので、平時には考えられない異常事態になりがちです。その時に、平常心に一般の人に適用される法律だけでは、武装集団の秩序は維持できないでしょう。例え死の淵に臨んでも、部下が任務達成に邁進するよう統率するのが理想ですが、統率力だけで事が解決できると思えません。武装集団を正常に機能させるためには避けて通れない問題です。

わが国の防衛を真剣に考えた際、以上三点について憲法を改正することが必要だと私は考えます。これを「叩き台」として皆様も考えを進展させ、大いに改憲を訴えて下さい。

五 陳腐化した「日本国憲法」

日教組の平和教育とやらに毒された人々にとつては「憲法改正はとんでもない」と考えるでしょうが、世界的視野から眺めれば、日本国憲法は極めて古くなり陳腐化しています。即ち「新憲法」と称して馴染んできた日本国憲法は百七十三ヶ国のうち十五番目に古くなり、しかも施行後一度も改正していません。世界中で異例中の異例とされています。また「世界に冠たる平和憲法」というのも誤解であつて、七十九ヶ国が何等かの平和主義の規定を盛り込んでいます。

世の中の凄まじい速さでの変化に即応するためにも、憲法改正を躊躇すべきではないのです。

六 同窓会としての施策

懸案だった財団法人問題を白紙に戻すという形で決着をつけ、将来構想検討委員会を発足させました。その委員会は昨年初頭から活発に活動しています。皆様の御意見を十分に盛り込んで

うえ、来年三月末に同窓会のあるべき姿について答申が出されることになっています。その成果に大いなる期待を懸けているところです。

また、今年度から事務局の編集部を広報部と改称し人員も強化しました。徐々にPR面で効果を発揮してこるものと確信しています。

なお、現役員会への機関紙の配布は部隊の通郵便を利用していましたが、会員の手元に届かないという苦情が多いので、来年度から全会員ヘダイレクトメールで送るよう計画しています。

従つて、住所が変わる都度、事務局に新住所を御連絡下さい。こうすれば、副次効果として名簿が逐次正確になっていくことでしょう。また、転居の際は郵便局にも確実に届けましょう。

本年も皆様とご家族にとつて、幸福で健康な良き年でありませうお祈り申し上げます。

お 願 い

一、来年度から同窓会機関誌を同窓会全会員に直接郵送することになりました。つきましては、最新の住所を同窓会本部まで、電話、FAX、葉書等により御一報ください。

一、同窓会機関誌に掲載する広告を募集しています。掲載を依頼される方は、同窓会広報部長まで御連絡ください。

☎二三九 横須賀市走水一―一―二十

TEL ○四六八―四一―三八一○内線二七二三

将来構想検討委員会報告

一 全般

平成五年六月三十日の臨時評議員会での財団法人設立断念に伴い、「防衛大学校同窓会のあるべき姿を明らかにし、今後の運営の在り方について、長中期的見地から構想及び運営計画を策定する。」目的をもって、同年十月評議員会で「将来構想検討委員会」の発足が決議され同年十一月の総会で承認を受け、平成六年より一期陸の志摩 篤氏を委員長とする委員会は実質的な活動を開始しました。その主要な検討項目は次の三つであります。

- ①同窓会の活動範囲及び事業
- ②同窓会組織の検討・確立
- ③会則の抜本的見直し

委員会は、昨年十月末までに6回の委員会と4回の作業部会を開催すると共に、アンケート調査や委員の部隊訪問による意見聴取を行い、「将来の活動方向及び会則改正方向の大綱」を決定すべく、鋭意検討を進めております。

今までに、現状の問題点の指摘、他大学等の同窓会の状況調査を始めとして、特に退職会員の増加に伴う各種の問題点を検討し、支部の在り方、本部・事務局の組織の在り方・場所、将来活動方向、会則の不備事項等について議論を重ねております。

委員会では手弁当での検討とは言え、同窓会の将来について真剣かつ熱の入った意見を交わしており、現在予定通りの進捗状況となっております。

二 アンケート調査結果概要

委員会は昨年六月から七月にかけて、「同窓会将来方向の大綱」「同窓会会則改正の大綱」決定の資を得るため、現状の問題点、同窓会の在り方・進むべき方向、会則改正方向についてアンケート調査を実施しました。

調査対象は退職会員については約1/4の任意抽出とし1期から5期まで各期百名の計五百名、現役会員は各期期生会長、評議員、各支部長等の四百二十五名で総計九百二十五名で、回答率は約7割でありました。

調査結果につきましては、次のとおりです。
1Q 同窓会活動について知っていますか。(知っているものを複数回答で選択)

1位 会議及び名簿の発行(95%)、2位 親睦事業(74%)、3位 期生会活動助成(67%)

2Q 次頁グラフ表示

3Q 現在の同窓会組織は機能していると思いませんか。
1位 あまり機能していない(50%)、2位 大体機能している(46%)、3位 十分機能している(2%)

4Q 次頁グラフ表示

5Q 7Qは4Qで「積極案を選んだ方」への細部設問(省略)
8Q A「会員相互の親睦交流」B「母校への発展充実への援助」C「対外活動」の優先順位をつけて下さい。(択一)
1位 ABCの順(53%)、2位 ACBの順(16%)
3位 CBAの順(10%)、4位 BCAの順(7%)

9Q 4Qで「積極案を選んだ方」はどの様に実施すべきだと思いますか。(択一)
1位 同窓会組織を強化して実施(65%)、2位 財団法人を設立して実施(30%)、3位 その他(5%)

10Q 将来、同窓会活動の拠点として同窓会館または代替機能をもつことについてどう思いますか。(択一)
1位 代替機能(69%)、2位 必要なし(15%)、3位 会館を持つ(13%)

11Q 同窓会の機能強化を図るとすれば何が重要だと思いますか。(複数回答可)
1位 同窓会中央組織(理事会・事務局スタッフ等)の強化(62%)、2位 支部の強化(56%)、3位 その他(9%)

12Q 逐次退職会員が増加していく将来、支部にどのような機能を期待しますか。(択一)
1位 自主的な活動ができる機能を保持(70%)
2位 連絡機能のみ(20%)、3位 支部不要(5%)

13Q 次頁グラフ表示

その他、全回答者六百三十に名の内8割を越える約五百名の方から、文章で貴重な意見を頂きました。委員会と致しましてはこれらのアンケート結果並びに貴重なご意見を十二分に踏まえて、今後の検討に活用させていただきますとともに、前向きにかつ実行可能な計画を指して参りたいと存じます。

三 委員会の構成

委員長		志摩 篤 1期陸	
第一作業部会 (将来方向検討)		第二作業部会 (会則改正検討)	
部長	委員	部長	委員
阿部 博男	1期空	本間 敏昭	2期陸
菅原 祐亨	小原台	船山 眞弘	小原台
井川 宏	2期海	長谷川 孝一	2期空
井上 陽	3期陸	金子 光男	3期海
下村 教久	3期空	常田 頼史	4期陸
小今井 淡水	4期海	田中 厚彦	4期空
近藤 一郎	5期陸	野尻 勝馬	5期海
村上 健孝	5期空		
根岸 勝利	小原台		
委員代理	事務局		
根岸 勝利	小原台		
事務局局長	君嶋 信	3期陸	同補佐
同窓会東京分室長(アドバイザー)	福田 光信	1期空	20期陸

四 今後の予定

委員会は、平成六年度末に同窓会の将来方向及び会則改正方向をまとめ、七年度上半期に再度アンケート調査を実施すると共に、委員の方面隊クラスへの意見聴取を行う等、できるだけ会員の皆様のご意見を伺い、答申案を作成する予定であります。

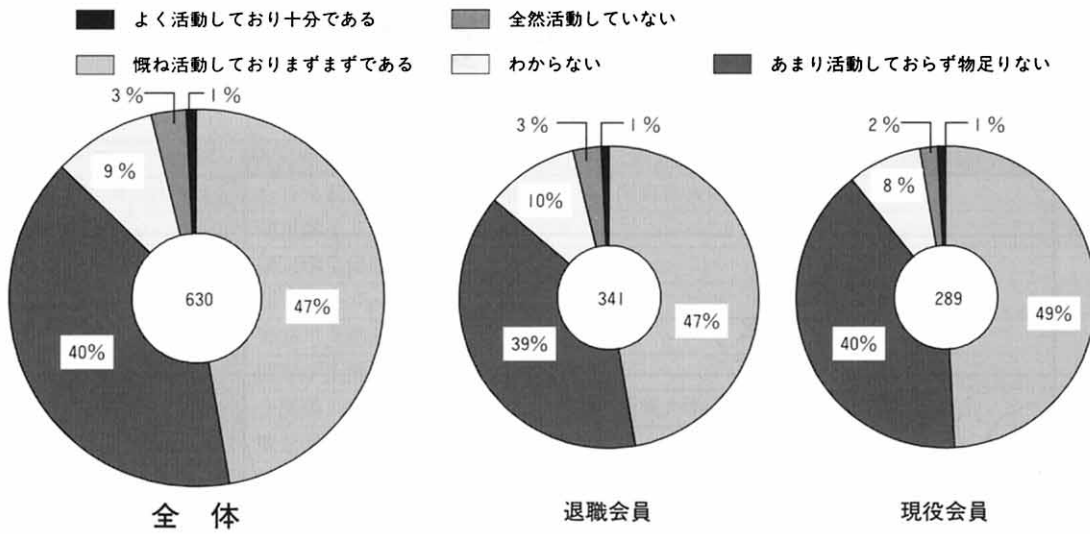
会員各位におかれましては、積極的なご協力、ご支援をお願い申し上げます。

また、将来の同窓会活動・組織及び会則改正等に関しましてご意見がございましたら、委員会事務局までご一報いただければと存じます。

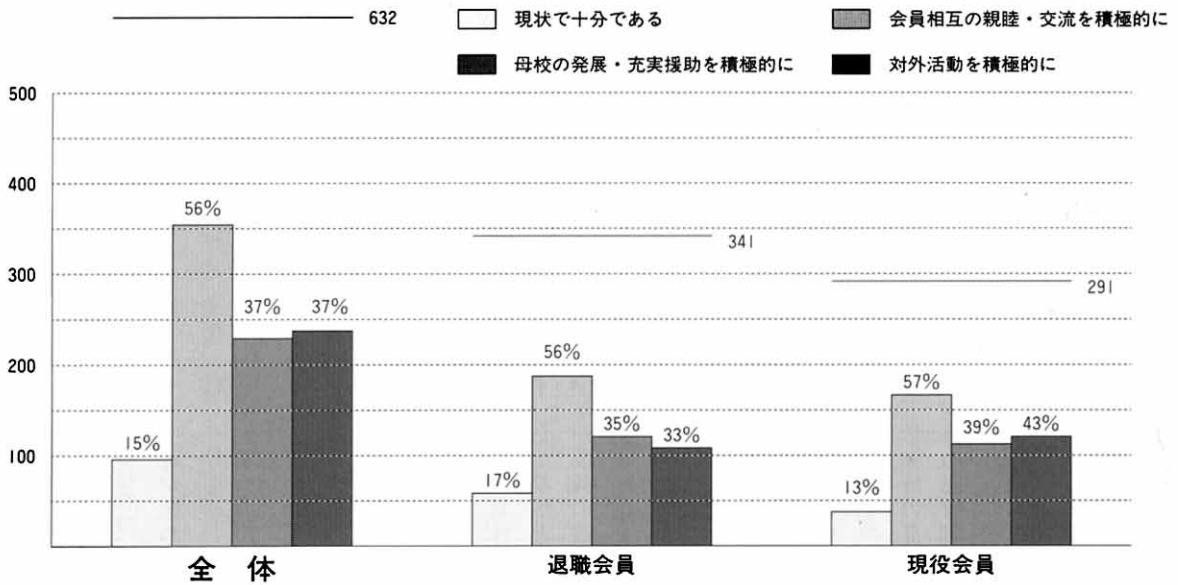
連絡先

〒一五三
東京都目黒区中目黒二丁目二番一
陸自幹部学校内「委員会事務局」
☎〇三(五七二)七〇〇九内線四二八三
専用線 八七五・四二八三

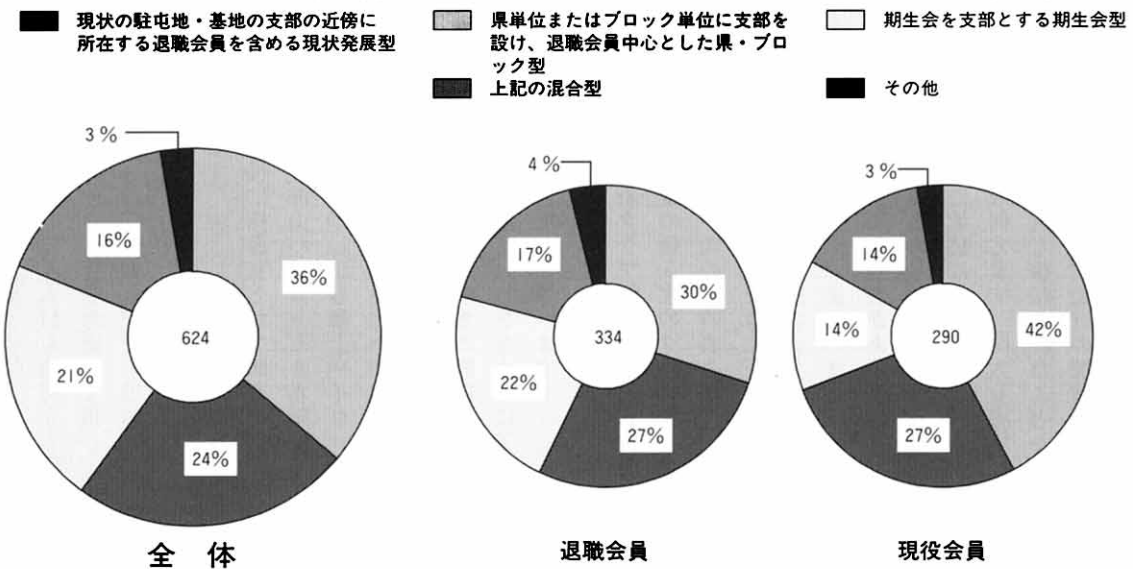
2 Q 現在の防大同窓会活動についてどう思いますか



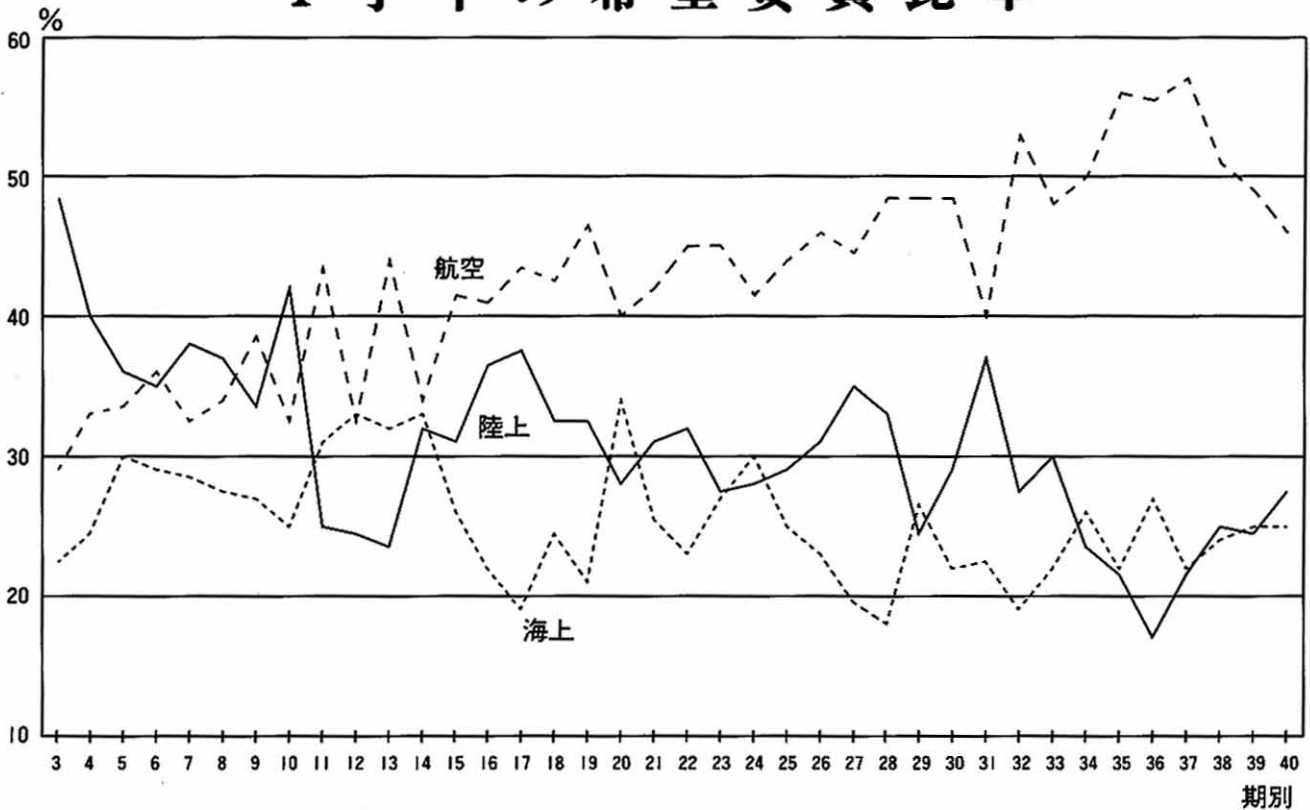
4 Q 将来の同窓会活動の方向はどうあるべきと思いますか。(複数回答可)



13 Q 退職会員が増加する将来、支部の構成はどうあるべきと思いますか。(択一)



1 学年の希望要員比率



〈陸・海・空要員の選択状況〉

上のグラフは防大三期生から四十期生までの第一学年時の第一希望の比率を表したものです。要員の配分は、各期の志望調査時の第一学年の総数により多少変動するものの、その比は、陸・海・空それぞれが概ね二対一対一です。指導官は、一学年全員が第一希望の要員になれるように、すなわちこの比率にあわせて学生が希望するように、入校当初よりガイダンス・朝礼等あらゆる機会を通じて教育します。

防大に入校したばかりの一年生にアンケートを取ると、大半の学生が、陸・海・空自衛隊への具体的な希望を持っておらず、ただ漠然としたものです。

第一学年が要員の選択に資する機会は、夏季定期訓練における各自衛隊の見学等ありますが、一番大きな影響力があるのは上級生からのアドバイスです。陸・海・空それぞれの要員が決定した上級生が、各要員の善し悪しを話すのを聞きながら要員を決めていくようです。その上級生の受けた印象の大半は、第三学年時の夏季定期訓練における約一ヶ月の部隊実習です。それぞれの部隊において隊員と共に生活及び訓練は、学生にとって最も思い出深いようで、上級生の下級生に対するアドバイスの大半は、部隊実習に受けた印象のようです。これをお読みの部隊のOBにとっては、訓練最盛期の

忙しい時期に実施しなければならない、煩わしい実習であるかもしれませんが、部隊実習に来た防大生は、次の陸・海・空自衛隊を担う人材を獲得する広報官であるという面を考慮して頂き、彼らにとって部隊実習が良き思い出となるよう今後も引き続きお願いしたいと思います。

最後に指導官として頭を痛めているのは、海上パイロットを希望する学生が少なく、しかも海上パイロットだけにはなりたくないという学生が多いことです。一学年及び海上要員の三学年が海上航空部隊に来た際には、海上航空部隊の素晴らしさを大いにアピールして頂きたいと思えます。

〈運動系クラブ新入生加入状況〉

本年度の新入生のクラブ加入状況については、次の頁の表の通りです。これを見てわかるように、武道系よりは球技系、また最近の人気スポーツに希望が集中しています。また、二学年時にカッター競技会があるということで、短艇委員会の希望が多いように、目先のことに敏感になるという最近の若者の気質も伺えます。防大も週休一日制、特外の制限も緩和されたことから、合宿期間の長短、土日の練習の有無、引退の時期も重要な選択要因になっているようです。このことは、新入生の勧誘のポスターからも伺えます。

平成6年度運動系校友会主要活動結果及び新入生加入状況

凡例：（）内は女子数

校 友 会 名	主 要 活 動 結 果	新入生加入数
短 艇 委 員 会	全日本競技会 8位 関東新人戦 1位	32
バスケットボール部	関東学生リーグ 6部残留	13 (1)
柔 道 部	関東学生優勝大会 2部残留	9
ラグビー部	関東学生リーグ 3部残留	48 (1)
サッカー部	神奈川大学リーグ 2部降格	21
剣 道 部	関東学生優勝大会 1回戦敗退	12 (2)
空 手 道 部	全国国公立大会 3位 関東大学選手権 ベスト 16	15 (2)
バレーボール部 (男子)	関東学生リーグ 6部昇格	11
〃 (女子)	関東学生リーグ 13部入格	6
卓 球 部	関東学生リーグ 5部昇格	7 (1)
陸上競技部	関東理工系大会 2位 箱根駅伝予選会 18位	13
硬式庭球部	関東理工系リーグ 8部残留	16 (1)
硬式野球部	春季神奈川リーグ 2部降格 秋季神奈川リーグ 2部残留	10
射 撃 部	全日本学生選手権 団体 (3姿勢) 10位 個人10位	5
水 泳 部	関東水球リーグ 4部残留 東日本理工系大会 2位	8
ハンドボール部	関東学生リーグ 7部降格	4
アメリカンフットボール部	関東学生リーグ 1部昇格	24
ヨ ッ ト 部	関東学生選手権 予選敗退	10
銃 剣 道 部	全日本優勝大会 団体 3位	10
ソフトテニス部	春季関東学生リーグ 9部昇格 秋季関東学生リーグ 9部残留	4 (1)
ボクシング部	関東学生リーグ 4部残留	5
レスリング部	東日本学生リーグ 2部残留	15
ボ ー ト 部	全日本大学選手権 ダブルスカル 8位	1
フィールドホッケー部 (男子)	関東学生リーグ 2部残留	12
〃 (女子)	関東学生リーグ 2部入格	2
パラシュート部	全日本選手権 (ジュニアの部) 個人 1位、2位、3位	4 (1)
準硬式野球部	春季神奈川6大学 3位 秋季神奈川6大学 3位	14
弓 道 部 (男子)	南関東リーグ 1部残留	5
〃 (女子)	南関東リーグ 3部残留	1
少林寺拳法部	全日本学生大会 (団体演武)優勝 (2段の部)優勝 (3人掛の部)準優勝 (初段の部)3位 (段外の部)3位	12
フェンシング部	関東学生リーグ (エペ・フルーレ) 4部残留 (サーブル) 3部残留	3
ウェイトリフティング部	神奈川選手権大会 (個人) 2位 3位	2
相 撲 部	全国相撲選手権 Cリーグ残留	1
バトミントン部 (男子)	関東学生リーグ 6部残留	8
〃 (女子)	関東学生リーグ 6部入格	0
体 操 部	神奈川県大会 (団体) 7位 関東理工系大会 (個人) 15位	2
自 動 車 部	JACSラリー 2位	3
グライダー部	久住山岳滑翔大会 個人 2位	10 (1)
応援団リーガー部		5
山 岳 部		4 (1)
ワンダーフォーゲル部		6 (2)
合 気 道 部		13 (3)
居 合 道 部		3
吹 奏 楽 部		7 (2)
儀 仗 隊		22 (4)

期生会便り

一期生の現況

一期生会会長 深山 明敏

光陰矢の如く、一期生も今や赤いチャンチャンを着る時期になりました。後輩の諸君が、国の内外で目覚ましい活躍を続けていくことは本当に心強く、頼もしいかぎりであり、私も多少でも応援できればと考えています。

一期の仲間も逐次第三の人生に歩を進める者が増えてきており、期生会の活動方向も新たな転換期を迎えております。同窓会が将来の構想をちょうど今、検討してくれているように、私どもの期生会もこれからのように進んだら良いのかということを考えなければいけないと思っています。特に、役員及び事務局の在り方、会費の見直し連絡網の整備、ならびに毎月の昼食会（市一会）の実施要領等を検討することになっています。

国内外の情勢が、極めて不透明・不確実・不安定な時期にある折柄、一期生もそれぞれの分野で活躍しています。特に国政に参画している田村秀昭参議院議員にとっては、改選の時期になっています。与党や野党、また党派の如何にかかわらず、同じ釜の飯を食

べて草創期に苦楽を共にした仲間を再び国会に送り、自衛官の立場に立って真剣に防衛問題を論議してもらったため、何はともあれ同期生が一致団結して、先輩・後輩各位のご支援も得ながら有形・無形の応援を進めて行きたいものと考えているところです。

自衛官からは「行かされる立場」の論理を国会等で堂々と代弁し、国家政策に反映してくれるような議員の存在が求められているのではないかと思います。その意味において、田村参議院議員と足並みを揃えて衆議院を目指し静岡県の沼津・裾野・御殿場地区で出馬態勢の整備に草の根運動を意欲的に展開中の近藤一視君にとっても、夢が実現する機会が到来したならば、また光明を見出すべく、皆様方の力強いご支援を是非お願いしたいものと考えております。

皆様方にとって、それぞれより一層良い年になりますよう心からお祈り申し上げます。

二期生会の状況

二期生会会長 小田原 昭

ポスト自衛隊の生活も軌道にあり、皆様には益々ご健勝のことと拝察しま

す。同期生会としても、逐次その活動が組織的になりつつあることはご同慶にたえません。

さて、この紙面をお借りして、この一年の同期生会及び役員会の動きをご紹介させて頂きます。現在、掌握している同期生総数は三五六名（陸海空）です。北海道に七名、東北地区に六名、中京・近畿・中国地区に四九名、九州に二二名、残り二七三名が関東地区に生活の基盤を置いております。

二木会（毎月の昼食会）・関東地区に在る同期生で毎月第二木曜日に市ヶ谷駐屯地で昼食会を行っています。毎回五〇名前後が集まり、ビールを片手に話が弾んでいます。日頃のストレスの解消と情報の交換、懇親の場として盛況の内に続けられています。今後は、同期生会の意志決定の場としても活用出来るのでは？と思います。地方の方で御上京の節は是非御参加下さい。また、先般、関東地区の緊急連絡網を配布しました。大切に保管して下さい。

ゴルフコンペ等・陸海空の各支部毎コンペを実施しています。陸は毎月赤羽と千葉で交互に、空は四半期に一回赤羽で等、その他、テニスを四半期に一回、スキーシーズンには同好の者で白いゲレンデを楽しんでいます。良かったら是非御参加下さい。いろいろな輪を作り、皆さんに楽しんでいただきたらと願っています。さて、役員会と

して、この一年間は退官後の期生会活動の基礎づくりに焦点を当て作業を実施しました。その一つは、会則の改定です。既に改定趣旨をお手元にお届けしましたように、退官後の実態に合うように修正するとともに、地方の活動基盤を明確に致しました。この間、数次にわたる役員会を開き、また地方の同期生とも調整し一案を得ました。その二は名簿の作成です。住所等の掌握、原稿の作成、印刷、配布等いろいろな意味で苦勞しました。全体の名簿としては、恐らく、この名簿が最後の名簿になると思います。大事に保管して下さい。今後、当分の間は部分修正で済ませたいと思います。その他、同期生に関する情報を、どんな些細なことで結構ですから役員までお知らせ下さい。相互扶助は期生会が一番大きな任務であります。では皆さんお元気で！

五期生会会員へ

五期生会会長 松井甲子雄

去る四月末に関東地区会を開催しました。関東一円に在住の同期生約三〇〇名に御連絡を差し上げたところ、一七〇名余りの御夫妻が東京グランドホテル市ヶ谷の大広間に集まって下さいました。平山茂男元期生会指導教官を始め多くの来賓の祝辞を頂きながら懇親の宴を楽しみました。

五期生会規約によりますと、総会・

懇親会は五年毎に実施されることになっております。前回、平成三年春に小原台で実施したので、次回は平成八年春の予定です。防大及び湘南地区に在勤、在住の現役員が準備を担当致します。詳しい日程、場所等は改めて御連絡致しますので、是非とも御参加下さいませよう期待しております。

また期生会名簿の発行も二年毎になりましたので今秋は休刊です。御了承下さい。なお、再就職、再出発で勤務先、住所、電話等に変更があった会員は名簿添付のハガキか官用ハガキ、電話等で是非とも御連絡頂ければ幸いです。

航空一〇期生会報(平成六年度特別版)

一〇期生会会長 西川正長

航空一〇期生会は、歴代会長の卓越した統率と全会員の固い団結により、何れの期にも引けを取らない心強い活動を続けています。例えば会則に則り会員の冠婚葬祭への祝弔電報等、年一から二回の総会開催、四半期一回の親睦ゴルフ、各専攻班別の懇親会、各基地単位においては、十全会(幹候校四三期との合同親睦会)活動など幅広い運営を行っております。特に平成四年五月には防大入校三十周年記念パーティを横須賀「ホテル・セントラーザ」で開催し、会員及び夫人計九十余名が集い、防大人文学教場に記念品と

して姿見一式を贈呈しました。しかしながら、昨年度から既に、定年退職者が逐次始めており、今後の会の運営にも何らかの転機を余儀なくさせられそうです。なお、本年度からは、前会計理事松山君の発案により住所録に添えて会報を発刊し、既に第三報まで全国に発送しました。以下にこの紙面を借り、その要約紹介並びに新規連絡の臨時増刊号とさせて頂きます。会報一から三号要約及び連絡事項

一 十期生会役員紹介

会長 平田伸成

副会長 西川正長(四月から)

副会長 白岩利雄

企画理事 高部求

会計 西田正憲

松山豊(四月から)

磯貝壽夫(八月から)

評議員 瀬戸正胤

佐藤昌史(八月から)

監査 山中啓吉

二 六年四月二二日 六本木、ホテル「ラ・パンセ」で春の定期総会実施、懇親会、役員の改選他実施、二十五名参加

六年十月七日 同く「ラ・パンセ」で秋の定期総会実施、懇親会及び基地毎の近況紹介、二十二名参加

平成七年度定例総会は七年四月第四週末の予定で準備中

三 定年退官者(平成五年四月から六

年十月末現在)

富吉(三術校)、藤原(中業隊)

布浦(百里防空隊)

四

御存知、幸治昌秀君主宰「航風館」平成四年七月に永六輔氏、村上英子氏の参加を得て「風のサミット」を成功裏に開催、「風は地球の息づかい地球に優しいエネルギー」のユニークな活動は、新聞テレビその他で広く紹介済み、房総の行楽にふつと立ち寄るのに最適、宿泊も可 予約八七五五―五七〇

五

布浦つとむ君著「時、所、人、そして夢(ある航空自衛隊指揮官の追想)」は、編単部隊指揮官としての実体験を隊員との交情をベースに自らの人生観を交え、心血を注いだ名著であり、若手幹部の必読書かと考えます。訓練図書としても最適でしょう。(購入申し込みは 千三〇五 茨城県つくば市 稲岡七〇九の十五 布浦つとむ迄 一、四〇〇円)

六

次回十期生会報は最新の名簿を添えて各基地別の寄せ書きを収録する方式を予定します。顕著な出来事、人の動きなど何でも結構ですので、会計理事磯貝まで、都度お知らせ下さい。(電話、FAXとも八三三―三八五〇 桜町中央業務隊本部、原稿手書き可)

十二期生会の皆様へ

十二期生会会長 佐藤 哲

全国津々浦々で御活躍中の十二期生の皆様、お元気のことと存じます。

過日、テレビを見ておりましたら東京オリンピックで活躍した円谷選手を題材にした番組がありました。あの国立競技場での開会式で、各国の国名の書かれたプラカードを持った防衛大学校の一学年(と二学年)が、紺の上衣・白のスボンと肩吊り弾帯という颯爽とした服装で行進し、多くの国民に爽やかさと凛々しい印象を残したことを思い出しました。あれから、二十三年間、諸兄におかれては、それぞれの時期・立場で研鑽・努力され、自衛隊の為に将来を見据えながら幾多の足跡を残しつつ職務を果たされてこられた訳であり、御同慶の至りです。

六年前、小原台で二十周年記念行事が催された頃は、国際的には米ソINF削減交渉の成功等に見られる冷戦構造の最中で、また国内適には自民党の単独政権が揺るぎない情勢でしたが、昨今はポスト冷戦で新たな紛争が湧出し、自衛隊が湾岸戦争後におけるペルシャ湾での掃海部隊の活躍以来、平成四年からはカンボジアに続きモザンビークでPKOに従事しており、現在は社会党首に率いられた自社等連立政権の下、人道援助の目的で約四〇〇名の「ルワンダ難民救援隊」がザイルの

ゴマ市で活躍中という情勢に大きく変化してまいりました。即ち自衛隊が日本の領土外で列国の軍隊と同様の活躍を果たすことに国内外の人々がもつてきた懸念が払拭され、幅広い国民の支持を得て、更にこれらの分野でも貢献が期待される時代になりました。このため、自衛隊のそれぞれのポストで重責を担う我々の見識と団結が一層大切になってきたものと感じます。

さりとて、我々の現役時代の終焉も見通せる時期でもありません。このような時期に家族を含めて陸海空同期生の意志疎通と親睦を深め、且つ民間にて活躍中の同期生諸兄との交流を広げると共に、将来の連帯について共通の認識を得ることなどの目的をもって、防大卒業三十周年という節目に有意義な行事を実施する提案があり、有志の尽力でこの事業の準備が進められていることは、既に諸兄の御承知のとおりであります。折角の機会ですので、この誌上で期生会本部で準備を進めている「防大卒業三十周年記念行事」について紹介させていただきます。

この件につきましては、実行委員会からアンケートが実施されて、陸一〇八名、海四四名、空五六名の諸兄から回答及び貴重なアイデアが寄せられ、その結果がまとまりました。それによりますと、全般構想は次の通りです。

時期 平成十年四月末（GW初日）

予定

場所 横須賀市内（小原台では特別な事業は実施しない）

参加態様 原則として夫婦同伴

予算 会員一人当たり約三万円の予定

招待範囲 卒業時の指導教官、卒研（同伴Dパーティー代含む）

の教授及び会員遺族（夫人）で希望される方

実施事項 総会、記念誌の発行、記念品の作成、記念講話、記念パーティー

以上の構想を実施するため、総務委員・記念誌委員・記念品委員・記念講話委員会及び記念パーティー委員が組織されました。そして業務は七年度から着手されることとなっています。今後、各担当チームが中心になって準備を進めて頂く訳ですので、諸兄の御協力をお願い致します。最後に諸兄の御健勝と益々の御発展を御祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

第十三期期生会の現状

第十三期期生会会長 牧木信近

一 期生会組織

防衛大学校第十三期期生会の組織は、昭和五五年三月二日（日）十四〇〇から十六〇〇市ヶ谷会館で開催された期生会総会の時承認を受けた「防衛大学校第十三期生会会則」に基づいています。それは、次のとおりです。

（組織）第三条

一 本会の会員は、防衛大学校第十三期卒業生とする。

二 本会の運営にあたり、本部並びに陸上支部、海上支部及び航空支部に次の役員を設置する。

（一）本部

会長一名、副会長二名並びに理事、庶務及び会計各三名

（二）陸上支部、海上支部及び航空支部責任者各一名並びに理事、庶務及び会計各一名

三 役員の出選は次による。

（一）会長及び副会長は、自己の所属する陸上支部／海上支部／航空支部の役員をそれぞれ兼任するものとし、原則として学生隊長学生長経験者が三年任期の交代制で就任する。

（二）理事、庶務及び会計は自己の所属する陸上支部／海上支部／航空支部の役員をそれぞれ兼任するものとし会長・副会長（支部責任者）がその都度指名する。

二 活動状況

通常は、支部単位の活動が主であります。特に海上支部及び航空支部は、幹部候補生学校（六十九幹候）の期生会として活動が多く、防大十三期のみによる親睦活動の場は極めて少ないようです。三年度毎の会長交代の時期（三月から四月）に原則

として期生会総会の開催及び近況を添えた会員名簿の作成を実施しています。なお、歴代の期生会会長は次のとおりです。

昭和四十四年から五十四年度

（陸） 丸田清次郎

昭和五十五年から五十七年度

（空） 内山好夫

昭和五十八年から六十年

（海） 牧本信近

昭和六十一年から六十三年度

（陸） 山下輝男

平成元年から三年度

（空） 内山好夫

平成四年度から六年度

（海） 牧本信近

三 将来展望

平素の親睦活動については、防大十三期のクラスから陸自、海自、空自の六十九幹候のクラスへと拡大して、B出身者・U出身者ともに連帯を図りたいものです。また、非現役会員（既に自衛隊を退職した会員）との交流の現状は、個人レベルで平素から実施しているものの、組織レベルでは期生会総会だけであります。そこで、各地方支部において、組織として平素の活動を一緒にやる方を検討しています。以上の二件についても、会員各位よりしく願います。

十六期生会だより

十六期生会会長代理 角田 司

同窓会員の皆様には益々御健勝にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

一九六八年小原台に集った十六期生も一九七二年卒業後二十二年を経過しました。今回は一回目ですので、十六期生会活動の概要等を御紹介いたします。

本会の活動は、同期生相互の親睦と団結を図ることを目的に行っておりませんが、一九八三年に殉職者の弔慰を契機に「本部」「陸・海・空部会」を設ける等の組織の強化及び会計業務の改善を図り今日に至っております。主たる活動としては、二年に一回の会報「聡明」の発行、卒業十六周年記念行事、総会の実施等がありますが、同窓会活動支援としまして、小原台クラブとともに同窓会三十周年記念行事の裏方支援を担任致しました。

来年度には十六期生も自衛隊二十五周年勤務の記念章を着けることとなりますが、民間企業等で活躍している同期生共々、「防衛力の再編」等の新たなチャレンジの大波を、働き盛りの四十代としてたち向かえることを誇りとし、厳しい職務に邁進しつつ、更に同期の絆を強めるとともに、現役学生及び同窓会活動への献身を体现する期生会活動を行っていきたくと念願しております。今後とも本会对する同窓会員皆様のご理解・御協力をお願い申

し上げ紹介と致します。

十七期生の皆様へ

十七期生会

会長 陸幕人 鈴木 陽

副会長 海幕人 久保 秀人

副会長 空幕人 小川 剛義

秋も深まり朝夕めっきり寒くなって参りましたが、同期生の皆様におかれましては益々御健勝にて部隊長、幕僚、教官、研究員等様々な場所御活躍のことと拝察いたします。特に今は「ルワンダ難民救援隊」が九月に派遣され、同時にこれを直接支援する航空輸送隊がアフリカの地に展開するという、これまでとまた一つ違った形での国際貢献が行われおりますが、我が同期も副隊長、幕僚、現地支援チーム、ザイール大使館勤務要員と重要な職務に邁進しております。早いもので、同期が一同に会し「卒業二十周年記念パーティ」を東京で催してから二年の月日が経ちますが大変意義の深かったものと感じております。いま、そのときの再会が縁となって公私にわたる協力・支援関係が行われている例も伺っています。冒頭に申し上げました様に、卒業二十周年それぞれ重要な地位にある我々十七期の団結が自衛隊の一つの原動力になっていることは間違いなく、さらに強固なものにしていきたくと願っております。さて、振り返って四十代半ばの年

代にさしかかった今、それぞれの家庭の中で良き父、夫であることは勿論良き社会人たらんとして皆様努力していることと思いますが、仕事から少し離れたところでの繋がりの一つとして同期生会の意義もあるかも知れません。この答を見つけることは「仕事人間」の生活に浸かっている我々にとって少し難しいことかも知れませんが、これからの同期生会についても何か考えなくてはと思うこの頃です。数年後、また皆で集うことを考えておりますが、何かいい知恵がありましたら教えて下さい。最後になりましたが、益々の御活躍と御家族共々の御健康と御多幸をお祈りいたします。

十八期生会だより

十八期生会会長 柳原 孝重

昭和四九年三月に小原台を去って以来二〇年、せり出す腹に対抗すべくダイエツト作戦を展開するもの予測した成果には遠く、また次第に寂しくなる頭頂部に昔日の姿を再生せんと高額医療品に投資するものの、これまた予期した成果に遠く闘志も少し萎え気味となる今日この頃です。

さて、十八期生会は本年二月、学校長、同窓会長、在校時の恩師及び指導教官等にお越し頂き期生会二十周年記念行事を実施しました。「同じ釜の飯を食った仲間同士」久しぶりに自由闊

達な雰囲気に戻り、当時を懐かしむとともに期生会団結の意気込みを新たにしたいところです。未だ修業の足りない身ではあるものの、「我、組織の原動力なり」と自覚し、先輩期、後輩期と連携して、防大同窓会の発展に寄与したいと考えております。

今後、活発な期生会活動を実施するため、本コーナーを大いに活用させて頂きます。

十九期生会だより

十九期生会会長 酒井 健

第十九期生会会員の皆様お元気ですか。司令部等の幕僚として、部隊等指揮官として、または会社等の中核として御活躍のこととお慶び申し上げます。ちなみに、湾岸戦争以来脚光を浴びているPKOでも同期生が活躍しております。

UNTAAC第1次派遣隊に若松幹泰君が、カンボジア派遣海上輸送補給部隊に斉藤力君及び西耕平君が、ルワンダ難民救援隊に加川健二君及び黒川博士君が参加し、任務を完遂され無事帰国しました。また、コレラ・黄熱病・ツエツエバエ等々と格闘しつつ任務を遂行しております。「祈 任務完遂・無事帰国！」

さて、我々第十九期も昭和五〇年早春に小原台を巣立ち来年三月で卒業二〇周年を迎えることとなりました。日本の二一世紀の担い手として我々第十

九期生の心意気を示すとともに、益々の団結を図るべく、只今検町に勤務する十九期統合戦力が記念行事を計画しておりますので、期生会会員の皆様の積極的な御支援、御協力をお願いいたします。細部は後日御案内申し上げます。

記念行事の概要

時期 平成七年二月十八日(土)

一六三〇から二〇〇〇

場所 赤坂プリンスホテル

千代田区紀尾井町一の一六

内容 記念講演

猪口邦子女史(上智大教授)

の講演

記念パーティー

在校間お世話になった方々を御招待し努めて夫人同伴で、同期生の旧交を暖める場とする。その他 同期生名簿等の作成・配布問い合わせ先

陸 幾多光治(陸幕運用課)

(内線)二五四二

三本明世(陸幕防衛課)

(内線)二四九三

海 国井晶(海幕航空機課)

(内線)二八九一

空 富田修(空幕防衛課)

(内線)三一六四

二十六期生会だより

二十六期生会会長 屋代 律夫

二十六期の皆さんお元気ですか、私達も卒業してはや十二年がたちました。まだまだ若い若いと思っておりますが今年の卒業生は三十八期、自分の年齢を考えるとやはり年々防大時代が遠い昔となっているのを感じております。しかし、未だ同期生と再会するたび学生時代がよみがえり、すぐに意気投合できるのは私だけではないと思います。周りの人たちの「何倍もある大きな声」で雑談できるのはやはり同期生同士だからではないでしょうか。自分の人生・環境そして社会の中で黙々と走っているときに、ふと時間が止まるような気がするのは学生時代から、苦しいこと、悲しいこと、楽しかったことを分かち合ってきた者同士だからなのだと思います。

さて、その同期生会を一九九六年のオリンピックの年に全国規模で東京で実施する予定であります。その準備として来年全員が集えることを心から願っております。

二十七期生だより

二十七期生会会長 小林 茂

二十七期生会では、去る六月二十五日、京王プラザ四階扇の間において同期生会を挙行しました。もともとは卒業後十年目を期して行おうと考えていたのですが、準備期間等々の関係から卒業十一年目の開催となりました。今回の

「期生会だより」では、残念ながら当日の期生会に参加できなかった方々への御報告から文を綴ってみようかと思ひます。

当日は、あいにくの雨模様でしたが、初代の期担当指導教官の中村様、二代目担当指導教官の長池様、卒業時の第一中隊指導教官の茂木様にもご参加していただき、総勢二〇〇余名という非常に多くの同期生の参加によって盛大な会を催すことができました。互いに懐かしい顔々が集まり「全然、昔と変わってないな。」などと言いつつ

(しかし、二十歳前後の若者から見れば明らかにお互いに年をとっている)。最後には「道遥歌」(勿論口上に始まりとなり、全員の合唱による伴奏につながり、歌へと引き継がれるあのパターンです。)で散会となりました。散会后もそれぞれのつながり毎二次会へと流れていきました。これほど期生会を盛況にとりおこなうことができたのも、準備に携わった方々の努力と期生会全員の何とかが参加しようという意志の表れによるもので、我々自ら高く評価できるものだと思います。

懇親会の実施に先だって総会を実施し、役員の変更と今後の活動について取り決めました。当日参加できなかった方々には事後承諾となりますが、この紙面上での報告でご勘弁お願いしたいと思ひます。まず役員に関してです

が、会長は前会長の高山君からの依頼を受け、私、小林がさせていただくこととなりました。どうも東京にいる期間が長くなりそうなので、結構便利かななどと自分では思ったりしています。副会長・会計は私の一存で決めさせて頂きまして、副会長は池君(「イケ、タロウくん」です。)、会計は佐藤君(同期の皆様には「マサヒサ」の方が通りがいいかもしれない。)をお願いしました。その他の係については特に決める必要性もないと判断し、三名だけを役員とすることとしました。

さて、今後の活動ですが、最大の事業はやはり次の期生会総会の実施です。次の総会は今から十年後、平成一六年に東京で実施したいと考えています。次回開催の準備も在京の同期生数名によるチームを作って実施したいと思ひますので、その時に東京にいる方は御協力のほど宜しくお願いします。その時には、今回参加できなかった方にも是非参加していただき、今回にも増して盛況な会となるよう頑張ります。最後にになりましたが、前会長の高山君のこれまでの労をねぎらい、「期生会だより」へ寄稿いたします。

三十期生だより

三十期生会会長 堀切光彦

お久しぶりです。いかがお過ごしでしょうか?このたび、「ゆうかり」が

「小原台だより」に生まれ変わり「期生会だより」のコーナーができました。今後は、このコーナーを活用して期の連絡を図りたいと思います。まず手始めに、防大卒業後九年目の陸・海・空・民のそれぞれの同期の近況を（一般）をお知らせいたします。

陸上便り（堀内・松本十三普連）

ほとんどの者が一昨年に幹部上級課程を卒業し、いよいよ中堅幹部として脂ののった時期です。部隊にあつては中隊長等として、方面・師団・各部隊の司令部にあつては（子）幕僚としてあるいは指揮幕僚課程の学生または受験生として奮闘しています。

海上便り（清末・自衛艦隊司令部）

ほとんどの者がここ何年かで中級課程に入校（期間は様々）の時期です。艦艇勤務の者は航海長・砲雷長・船務長等に、パイロットは航空機を降りて陸上勤務をする時期で、早い者では海幕で勤務する者も出ています。

航空便り（池田・防大指導教官）

パイロットの者は四機編隊の編隊長や航空集団の教官をやっています。変わり種では高橋（とおる）君が政府専用機の出納長をやっています。

民間便り（土村・熊本県庁）

最近自衛隊を辞めました。現在、郷里の熊本で県庁に勤めつつ実家に農業を細々とやっています。皆さん米は国産を食べましょう。

期生会名簿の再編について

ご承知のとおり名簿（住所録）の整備が遅れております。名簿の整備にあつては時間と労力と忍耐を要するため、度々の申し送りによって時機を逸し、住所等が時代遅れになっていきます。この責めはひとえに私にあります。この度、このコーナーを利用して名簿の整備を実施しようと思います。各自の現況を左記の宛先までハガキでお知らせ下さい。

宛先 四一〇一四 静岡県駿東郡小山町須走四八一―二七

富教団本三科 堀切 光彦

現況の内容

おとところ…住所、電話番号

おつとめ…現在の所属（会社）、役職名、職業等

その他…同期に伝えたい近況等

締め切り 平成七年一月十五日（年賀状可）

新名簿発簡予定 平成七年二月十五日

*名簿の興廃の一戦にあり、各員必ず一報せよ！連絡待つ

三十八期生会だより

三十八期生会会長 石井 浩之

はじめまして、今年度より伝統ある防大同窓会に入会しました三十八期生会です。平成六年三月に小原台を巣立ち、陸海空それぞれの幹候校へと進んだ我々も、早いもので陸上及び航空自

衛官におきましては、それぞれの補職も決定し、全国各地の部隊へと配属されました。防大において屈指の団結力を誇った三十八期生も、いよいよその真価をとわれる時期が到来しつつあります。各部隊におきましては、諸先輩の皆様いろいろなとお世話になることと思ひますが、御指導のほど宜しくお願い致します。

それではここで私たちの近況をお知らせしたいと思います。

陸上においては、去る九月三〇日に久留米の幹候校を卒業し、それぞれの部隊において隊付教育を受けている最中でありまして、もしかしたら、この記事を御覧の先輩方の近くで勤務しているかも知れません。見かけたら是非声を掛けて下さい。尚、戦闘職種については富士学校に平成七年一月入校予定であります。

海上につきましては、幹候校における厳しい訓練の真つ最中でありまして、夏場の猛暑の中での護衛艦実習、そして原村における野外戦闘訓練と海へ山へまさしく体力の限界に挑戦しております。

航空は九月一四日に奈良の幹候校を卒業し、全国各地の部隊で隊付教育を受けております。職種によっては早い者で十月末から術科学校への入校が決まっており、着々と部隊の原動力となるべく力を蓄えているところです。パ

イロットコースへは七十三名中二十四名が進んでおります。尚、三十八期生会に対する御要望等ございましたら、私、石井候補生まで御連絡下さい。様々な形で諸先輩方及び同期の親睦を深めることができれば幸いです。

最後に防大同窓会の御発展を心から祈念して、三十八期生会の近況報告を終わりたいと思います。

航空自衛隊三沢基地北防群防空管制隊 専用線（八一二七―二七二二）

小原台クラブの活動について

小原台クラブ会長 菅沼祐幸

同窓生の皆様いかがお過ごしでしょうか。小原台クラブは防大に籍を置きながら、中途で退学したり、卒業しても民間企業や自営業に転じた者たちが集まり、相互扶助と親睦を目的として設立しましたが、今や定年退職組も相当数輩出して、民間で活躍されています。

小原台クラブとしても、このような時の流れを十分認識し、防大出身者の民間に在る活力を結合して、新しい時代的要求に応じられるような団体になりたいと考えております。

そのために、本会の活動目標として、三つの柱となる目標を考えております。一つは、母校及び母校同窓会への協力、支援であり、二つには会員相互の親睦の増進、相互扶助の体制の確立、

三つには本会自体の社会的存在の確立とその働きの拡大であります。具体的な行動については、企画、広報、文化、相談の各委員会を通じて、右の目標に向かって、試行錯誤を重ねながら進んでいるところであります。

我がクラブの実績としては、防大同窓会三十周年記念行事における本会の協力、支援の実績については、多くの方に評価していただいたものと自負しております。

また会員相互の親睦や、より高い社会活動への参加、異業種、同業種間の交流を通じて、より活発な経済界への参加機会の拡大を図るために、毎月第三金曜日に副会長長根岸勝利君の応接間をお借りして、自由な討論や談話、自己紹介や今日的事業の動向など、全く自由な立場で話し合う場を設けています。酒肴も簡単なものですが十分用意され、卒業期の上下のわけへだてもなく、話もはずみお互いを知り合う良い機会と好評です。ただ参加できる人数として二十名前後のスペースしかないことは残念なところではありますが、それはそれなりに十分機能を果たしていると思っております。二ヶ月一度の各期幹事会もお互いを知り得る方法とします。

本会の事務局は東京都品川区旗の台五の十五の十五コーポ野村旗の台二〇一（電話三七八五―一六六四）であります。

ます。本会の活動に対し、同窓生各位の御理解を心からお願い申し上げます。

防衛大学校の近況

四月四日に山口防衛政務次官をお迎えして入校式が行われ、本科四十二期学生五〇五名、理工学研究科学生七十五名が入校致しました。

四月二十八日にカッター競技会が行われ、第二大隊が五年連続の総合優勝、しかも、決勝レースにおいて一位から三位までを独占するという快挙を成し遂げました。

九月十日に水泳競技会が行われ、第一大隊が二年連続の優勝をしました。

三十九期の門倉光慶（航空要員）学生が、十月一日から五日の間、アイルランドで行われたウォールハンドボール世界大会に日本代表として参加しました。

十月下旬から十一月月上旬に愛知県で行われた国民体育大会に三十九期の松崎英治（海上要員）学生が銃剣道競技に、四十期の弥頭親善（陸上要員）学生がボクシング競技に神奈川県代表として参加しました。

十一月十三日の開校祭において棒倒しが行われ、第一大隊が三連覇を達成し、海軍機関学校同窓会から三年連続優勝記念杯が合わせて授与されました。



平成5年度予算使用実績

防大同窓会経理部
平成6年11月12日

担当部	科 目	予 算	実 績	備 考
事業部	総 会 費	2,800,000	2,681,360	
	期生会支援費	1,200,000	923,870	
	校友会対外活動助成費	1,000,000	0	
	開校祭助成費	2,000,000	1,978,012	
	小 計	7,680,000	5,583,242	
総務部	顕彰碑献花式費	600,000	533,135	
	顕彰室整備支援費	300,000	192,911	
	慶弔費(弔慰・供花)	1,000,000	312,266	
	職員定年退職者記念費	100,000	58,710	
	事務通信維持費	500,000	486,447	
	東京事務所運営費	3,180,000	3,180,000	
	評議委員会運営費	500,000	913,969	
小 計	6,180,000	5,677,438		
編集部	機関誌発行費	800,000	915,887	
	事務通信費	50,000	40,801	
	小 計	850,000	956,688	
人事部	同窓会名簿整理費	1,000,000	1,455,721	
	事務通信費	100,000	0	
	小 計	1,100,000	1,455,721	
経理部	会長運営費	650,000	494,319	
	事務員雇用費	2,000,000	2,000,000	
	事務通信費	700,000	723,324	
	交 通 費	150,000	81,360	
	会 議 費	200,000	195,823	
	予 備 費	2,000,000	0	
小 計	5,700,000	3,494,826		
財団法人 関 連	財団法人設立基金	100,000,000	0	
	財団法人設立委員会活動費	1,000,000	1,000,000	
	小 計	101,000,000	1,000,000	
合 計		122,510,000	18,167,915	

平成7年度予算支出計画

防大同窓会経理部
平成6年11月12日

担当部	科 目	予 算	6 年 度 比	摘 要
事業部	総 会 費	3,410,000	+610,000	会員の増加及びダイレクトメールの実施 過去の実績を反映
	期生会支援費	700,000	-500,000	
	校友会対外活動助成費	1,000,000	0	
	開校祭助成費	2,000,000	0	
	小 計	7,110,000	+110,000	
総務部	顕彰碑献花式費	600,000	0	防大が担当実施
	顕彰室整備支援費	0	-300,000	
	慶弔費(弔慰・供花)	700,000	0	
	職員定年退職者記念費	350,000	0	
	事務通信維持費	1,760,000	0	
	東京事務所運営費	1,560,000	-1,620,000	
	評議委員会運営費	500,000	0	
小 計	4,310,000	-1,920,000		
広報部	機関誌発行費	3,976,000	+2,576,000	機関誌の充実及びダイレクトメールの実施
	事務通信費	50,000	0	
	小 計	4,026,000	+2,576,000	
人事部	事務通信費	0	-100,000	
	小 計	0	-100,000	
経理部	会長運営費	500,000	-150,000	期生会長活動費等の削減
	事務員雇用費	2,000,000	0	
	事務通信費	650,000	0	
	交 通 費	150,000	0	
	会 議 費	200,000	0	
	予 備 費	2,000,000	-1,000,000	
小 計	5,500,000	-1,150,000		
将来構想	将来構想検討委員会活動費	1,000,000	0	
	小 計	1,000,000	0	
合 計		21,946,000	-484,000	

平成六年度同窓会行事

十月 評議員会

平成五年度決算報告
 平成六年度予算案審議
 同窓会会員に対する連絡方法の変更案議決
 準公務の顕彰者報告
 本年度の顕彰者報告

十一月 顕彰碑献花式

公務に準じて他界された四名の方々の御遺族の参列を賜り、しめやかに執り行なわれました。

総会

平成五年度決算報告承認
 平成六年度予算案承認
 同窓会会員に対する連絡方法の変更案承認
 準公務の顕彰者報告
 本年度の顕彰者報告

広報部からのお知らせ

同窓会機関誌は本号から「期生会便り」というコーナーを設け、会員の皆様にとってより興味のあるものになりました。

このコーナーの目的は、期生会各期の親睦をさらに深めるとともに、同窓会会員に対して活動状況を紹介することであります。このコーナーは、各期期生会長をはじめとする会員皆様方のご協力なくしては成り立ちません。今後とも御協力宜しくお願い致します。なを本年度原稿を送って頂いた各期期生会長の皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

さらに来年度からは、同窓会会員の皆様に機関誌を直接送付するダイレクトメール方式により、皆様の手元に少しでも早く届けられるようにと考えています。住所変更された場合には、同窓会本部まで御一報ください。さらに、各期期生会で名簿を管理されている方々のご協力を宜しくお願い致します。

また、ダイレクトメール方式による郵送費用の増加分を広告による収益で補いたいと考えております。各企業等で御活躍されている皆様方の広告の掲載によるご協力を宜しくお願い致します。なを、掲載の依頼については広報部長にお願い致します。

平成六年度同窓会事務局役員

職名	氏名	期別	要員	勤務先	電話
会長	中尾 時久	1	(陸)	日本工機(株)	03-3436-1223
副会長兼事務局長	安岡 義純	5	(空)	防大電子工学	専 8-40-2272
副会長	石飛 勇次	10	陸	陸幕管理部	専 8-33-2410
理事(法務担当)	菅沼 祐幸	1	(空)	菅沼法律事務所	03-3465-1650
理事(会計担当)	後藤 薫	1	(陸)	後藤会計事務所	0423-74-4759
理事(総務担当)	松村 嘉夫	1	(空)	三菱重工(株)	03-3202-2295
理事(総務担当)	中村 義一	2	(陸)	防大材料物性工学	専 8-40-2381
副事務局長	峯村 勇	22	海	防大2大隊事務室	専 8-40-2725
総務部長	福島 睦	26	空	防大31中隊	専 8-40-2731
人事部長	久木田善人	24	海	防大11中隊	専 8-40-2711
経理部長	納富 茂年	23	空	防大4大隊事務室	専 8-40-2745
事業部長	白坂 昌行	26	陸	防大41中隊	専 8-40-2741
広報部長	堀井 克哉	25	陸	防大13中隊	専 8-40-2713

事務局連絡先

☎二三九 横須賀市走水一丁目二十
 TEL ○四六八―四一―三八〇内線二七〇七
 FAX ○四六八―四四―三三〇一
 専用線 八―四〇―二七〇七
東京分室連絡先(代表) 福田光信(二期)
 ☎一〇六 東京都港区六本木七―十八―十八
 TEL ○三―三四七九―九二五四
 専用線、八―三二―五七四五